進捗状況の概要

平成 24 年度～平成 25 年度を新規開発・試行実施期、平成 26 年度を本格運用期、平成 27 年度を精緻化期として位置付け、連携校及びステークホルダーが協働して本事業を実施している。

○学生リーダーシップ養成プログラムの開発・普及

先進的なリーダーシップ養成実践事例を調査し、プログラム構築の知見を収集するとともにフィールド開拓を行うため、平成 24 年度に国内外 10 の先進事例・機関のヒアリングを行った。これらの調査・開拓を踏まえ、平成 27 年度までに 50 以上のプログラムを実施し、延べ約 2,500 人の学生参加があった。

平成 27 年度以降プログラムの精緻化を進め、主となる研修プログラムが定まってきており、継続した研修プログラムの実施ができるようになってきている。

また、研修プログラムとは別に、本事業研修プログラムで学んだ学生が一堂に会し、取組から得た学びや気づきを共有・整理するための「学生リーダーシップ・カンファレンス」を平成 27 年度までに 3 回開催している。

○経験を学びに変える省察手法の標準化

経験を学びに変える省察手法の標準化を目指し、経験のない教職員は経験がある教職員と同じチームを構成して研修プログラムの中で実践的な指導を受けるとともに、本事業で作成した教材（「UNGL のアングル」vol.1～2）を活用して、省察手法の標準化を図っている。また、研修の場面を映像で記録し、実践の前に事前学習ができるように共有している（例：「学生への振り返り指導ティップス～学生の自発的な気づきと効果的な成長を促す為に～」等）。学生の成長を測るため、平成 27 年度から「学生自己・他者診断」を行って学生にフィードバックするとともに、データの蓄積を開始した。後に分析可能なデータになるよう、これを継続して実施していくこととしている。

○持続的なリーダーシップ養成のための教職員能力開発

連携校共同会議の開催に合わせて Off-JT 型の教職員研修を継続して行ってきている。加えて、研修プログラムの中で、学生を支援する教職員の能力開発を同時に行う OJT 型の研修を行っている。これにより、実践を通してリーダーシップ研修を企画・運営するノウハウを各連携校に広めている。既述のとおり、このために平成 27 年度までに教職員の能力開発に役立つ教材を作成し、連携校で共有した。

○リーダーシップを培うための多様なフィールドの提供

国内のフィールドとして、連携校が協働して各地域で研修プログラムを企画・実施し、それぞれ異なる題材を用いてフィールドを開拓してきた。また、海外のフィールドとして、平成 24 年度に調査したフィールドのうち、韓国、サイパン、ハワイにおいて研修を実施し、平成 25 年度には新たに台湾において研修を実施するなど、多様なフィールドを開拓した。現在、開拓したフィールドにおける継続的な研修実施の視点にも重点を置き、研修プログラムを実施している。

○運営体制等

本事業を円滑に推進するため、連携校共同会議を設置し、平成 27 年度末までに 16 回開催している。また、各事業を分担して実施するため、4 部会（学生部会、教職員部会、フィールド部会、評価部会）を設置し、連携校共同会議の前後に対面で開催している。

ステークホルダーを中心に委員就任を依頼して事業評価委員会を設置しており、平成 25 年度から年度末に外部の視点から評価・助言をいただくため、事業評価委員会を対面で開催している。

平成 27 年度までの実績を踏まえ、平成 28 年度は精緻化した研修プログラムを改善しながら実施するとともに、平成 29 年度以降の事業のあり方について検討を行っている。

（代表校名：愛媛大学、取組名称：西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム）